

令和6年度 SDG s チャレンジサポートプロジェクト
第2学年 国内フィールドワーク

(概要)

第2学年探究学習委員による国内フィールドワークを実施しました。東日本大震災・原子力災害伝承館における研修や、仙台市内の事業所訪問を実施し、探究活動に必要な取材等を行うことができました。また、宮城県の高校生(仙台二華高校生)と探究学習の交流会を実施しました。一昨年度からコロナ禍において制限されていた校外での探究活動を再開することができ、今回で3度目の国内フィールドワークになりましたが、生徒たちにとっては、大変有意義な3日間となりました。年度末の探究学習発表会に向け、研究内容の更なる深化を期待します。

記

1 目的

- (1) 事業所訪問をとおして、研究に関わる資料や情報の収集を行うとともに、コミュニケーション能力を伸ばす。
- (2) 他校生との交流をとおして、探究学習における研究の方向性を見直す契機とする。

2 期日

令和6年8月18日(日)～20日(金) 2泊3日

3 事業所

東日本大震災・原子力災害伝承館、宮城県内の各事業所、宮城県仙台二華高等学校

4 対象 第2学年探究学習委員 25名

5 行程

8月18日(日)	7:20 10:30 10:30 13:00 18:00	学校発 東日本大震災・原子力災害伝承館着 被災地フィールドワーク 伝承館展示見学・講話・ワークショップ ホテル着
8月19日(月)	9:00 17:00	ホテル発 ※各班ごとに事業所を訪問 ホテル帰着
8月20日(火)	8:40 9:00 12:00 14:00 18:00	ホテル発 宮城県仙台二華高等学校着 探究学習生徒交流会 ホテル発 学校着

6 内 容

(第1日目) 8月18日(日)

朝7時20分に学校へ集合し、借り上げバスで東日本大震災・原子力災害伝承館に向かった。10時30分に伝承館に到着し、先ずは一日の研修について説明を受けた。その後、バスで双葉町と浪江町の街並みを見ながら原子力災害の被害について、同乗したガイドさんから詳しい話をうかがった。午後の伝承館の展示見学では、原子力災害の被害の悲惨さや様々な苦勞について、実物等の様々な資料を通して身近に感じられる体験をした。語り部講師の方のお話では、原子力災害の悲惨さや様々な苦勞について、また、災害を自分事として考えることの大切さについて学ぶことが出来た。最後のワークショップでは、一日の研修の振り返りを行うことができ、原子力災害を自分事として考え、みんなと共有することができた。

伝承館研修の満足度／4.68 (5段階評価)

(第2日目) 8月19日(月)

各グループがそれぞれのテーマに関連した事業所を訪問した。そこで、新しい知識を身につけたり自分たちの探究のアイディアに関してアドバイスをいただいたりした。

事業所訪問の満足度／4.86 (5段階評価)

今回生徒たちがお世話になった事業所は以下のとおりである。

仙台市交通局、(株)保安サプライ、とびのこハウス、ぼぼらす、ぐらんりんく、仙台市役所市民生活課・住宅政策課、東北福祉大学総合福祉学部福祉心理学科、特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ、にじいろCANBUS、金港堂 出版部、仙台市役所環境局資源循環部家庭ごみ減量課、イーグルス私設応援団、青空応援団、仙台市役所子ども若者局運営支援課

(第3日目) 8月20日(火)

昨年に引き続き、仙台駅近くにある伝統校、仙台二華高校に訪問し、互いの探究活動に関するプレゼンと意見交換を行なった。

はじめに両校の学校紹介を行い、それぞれの学校の特色について理解できた。

次に、本校生9グループと二華高校6グループを3つの分科会に分け、それぞれの分科会でプレゼンテーションを行なった。本校のプレゼンには、19日に行なった仙台での事業所訪問の成果も盛り込まれ、軌道修正の必要性についても言及するなど、中間発表ながらこれからの進化が楽しみなものであった。仙台二華高校生は1グループにつき2~3人の生徒が質問をしてくれた。仙台二華高校生からのプレゼンは水問題をテーマにしたもので、北上川流域の水資源の活用の問題や、7月末から8月初めに訪問したカンボジアへのフィールドワークの成果と課題に関する興味深い内容だった。

他県の高校生との交流は、大きな刺激にもなり、非常に有意義なものであった。

仙台二華高校との交流会の満足度／4.77 (5段階評価)

7 参加した生徒の感想(事後アンケートより一部抜粋)

(1) 東日本大震災や原子力災害にかかわる震災遺構を見学して考えたことや、防災・減災対策に対する問題点などの意見。

・東日本大震災の被害としてすぐに思い浮かぶのは福島第一原発の放射性物質のことだったが、施設の方が「複合災害」と表現していて、地震による一次被害と二次被害は別のものでそれぞれに対してアプローチすることが重要だと感じた。

- ・初めて実際に津波や原発にあった土地を訪れ、当時のまま残された倒壊した建物をみて、本当にこんな悲惨な災害が起きたということを改めて認識することができたし、とても衝撃的だった。
- ・今までは自分は防災できているだろうと慢心していたが、想定外の災害が起こった時、素早く正確な判断を下さなければならないと実感し、もっと災害と自分の住む地域について調べようと思った。
- ・フィールドワークの際小学校付近の丘で見た、もともと500世帯が住む街あった場所が草原になっているのを見て、災害の怖さと自然の大きさ？本当に人間が太刀打ちできないだなんていうのをすごく感じた。小学校の生徒は助かったけど、迎えに来た何名かの親は駐車場で津波に巻き込まれたという話が辛くて、災害時の伝達がどれほど難しく、でも重要かを考えさせられた。
- ・震災によって荒れた街の写真ばかり普段は目につくが、今回の伝承館訪問を通してそこには本来私たちと同じような普通の日常があり、それが突然壊されてしまったのだという実感があった。また私たちの生活も同じようにある日突然消えてしまうこともありうるんだと思い、普段から災害に備えておくべきだと改めて感じた。
- ・町に恩恵をもたらした原子力が、それを破壊することになって皮肉だなと感じた。だっ広く平で何も無い緑に、ぽつぽつと当時の遺構が残っていて不思議な感じだった。工場が少しずつでき始めていたが、金輪際ここには住めないと知り住民の悔しさが分かったような気がした。

(2) 事業所訪問を実施した結果や感想。

- ・自分たちが聞きたかったことだけでなく、さらに進んだ内容まで詳しく教えていただき、また実際に見せていただいたり触らせていただいたことで、これまでの考察が深まったり、逆に発想を転換するきっかけとなった。
- ・市役所ではフードドライブの取り組みについて丁寧に教えていただき、理解することができた。食品の種類など食品や運搬に関する事はフードバンクのみ把握していると聞いたので帰ったあとの自分たちのFWでフードバンクに訪問したいと思った。
- ・今まで自分がふわっと考えていた事が、実際に看板や標識を作る・使う事業所を尋ねることで、厳格なルールがあることやそれでもその中で工夫して行くことが重要だと学び、より考えを深められた。
- ・私たちの班はもともと飢餓を減らすことをテーマにしていたんですが、土浦の子ども食堂を訪問してみて少しテーマを変え、町の人達のコミュニティ形成にしたため今回訪問させていただいた子ども食堂はもともとのテーマには合っていましたが今の新しいテーマとは少しずれていました。けど、毎日、しかもターゲットも他の食堂が課題としているようななかなか支援できない人たちを受け入れていて本当にすごい場所でした。そこにいた子どもたちものびのびと本当に居心地がよさそうに過ごしていて、子ども食堂としても、コミュニティ形成の面でも学ぶことがとても多かったです。土浦の食堂になにか提案するときも、今回の食堂を参考にいろいろと考えてみたいと思います。
- ・フードドライブにはいくつかの課題点があり、1つは集められる食品には偏りがあるということ、もう1つは2024年問題の影響が出るということ。初めの食品の偏りについては、偏りを抑えるために食品を購入している現状があり、余剰食品の活用として基本的には無償で行っているフードバンクにとってはそのお金のやりくりの課題がある。次の2024年問題については、運搬の協力元の減少に際して食品の回収場所を減らしたり、運搬までをやってくれる新たな企業を募ったりしなければならないなどの課題がある。

- ・最初にアポを取ろうとしていたところではない事業所になり、少し不安だったが、実際に保育士としても働いている方にお話を伺うことができ、ずっと不思議に思っていたことを知ることができた。最初は、教材などで勉強することが必要だと思っていたが、お話を聞いて、生活の中で興味を持って、自分から「もっと知りたい」と思わせることが大事だと分かった。
- ・今までになかった視点を得ることができた。特に、悩み相談のゴールは問題解決ではなく悩みや悩みを持つ自分を受け入れることだという話しは印象に残った。

(3) 仙台二華高校の生徒と探究学習の交流を行って考えたこと。

- ・初めて自分たちのプロジェクトについて聞く人への説明の難しさを感じた。また二華高校の皆さんの発表からは、主にデータ収集の面で優れていることが感じられ、データの有用性を感じられた。
- ・自分たちのグループだけでは出てこなかった疑問や意見をいただき、アイデアを深めることができた。また、二華高校の生徒さんの探究活動は先行研究の確認や事前の下調べを重点的に行っていると感じた。
- ・積極的に質問を行っている姿や、自信を持って発表している生徒たちの姿を見て、かっこいいと思った。『仙台二華高校さんはこれからも探究仲間だ』と思い、これから探究を頑張っていきたい。
- ・私たちは自分たちのたてた問題点に対して自分たちなりに答えを出したり、解決方法を提示したりする形で探究活動をしています。今回聞いた二華高校の生徒さんは社会に役立つ問題解決のヒントを見つけ、発信し、社会にうまく活用してもらおう形の探究を行っていて新しいアプローチの仕方だったので面白かったです。
- ・二華高校の探究は、科学的で、先輩方のアイデアもカンボジアで実際に役立っているようだった。私たちは世界に視野を広げすぎると難しいということで身近な課題を設定したけど、世界の課題を実際に解決していきそうですごくかっこよかったです。考察もきちんと考えていた。
- ・二華高校さんが、カンボジアの中で「ここが自分たちのフィールドだ」と紹介しているのが印象的だった。何年も続いている取り組みだからこそ、自信を持って活動に取り組めるのだろうなと感じた。
- ・地域に根ざした様々な探求をされていてどれも興味深かった。何より探究活動を積極的に楽しそうに行っている姿がとても印象的だった。自然という不確実なものにチャレンジするのもとてもいいなと思った。
- ・実験を重ねて仮説を検証し、堅実に探究を形づくっている姿勢から刺激を受けることができた。

(4) 仙台FWに参加して、学んだことや考えたこと、今後の探究学習にどのように生かしていくか、次年度以降の改善点など。

- ・事業所訪問は自分たちのテーマにあった方に質問ができてとても参考になったが、それよりも初日の伝承館の訪問が強く印象に残った。私たちの住む茨城と隣合ったこの県でどれだけの災害があったのか直接お話を聞くことが出来たのが今後においてもすごく貴重な経験になった。
- ・自分たちの探究はもっとターゲットとメインテーマを明確にすることが重要だと感じた。多くの意見や情報を得たので今後の活動に活かせるように情報を精査していきたい。
- ・交流会で刺激を受けたので、次はアイデアの傘を広げてもう一度整理して探求をしていこうと思いました。

・今回、仙台という茨城とは全く違う場所でFWをしたことで様々な方から新たな視点や価値観を聞くことができたので、せっかくいただいたアドバイスや意見も考慮しつつこれからも探究活動していきたいと思った。

・災害について家族と話しておこうと思った。訪問した食堂と私たちの今のテーマを、ズレているから、とただの体験記として別で見るのではなくて、違った方向から見てみると参考にできそうだったので、今後なにか提案するときの参考にしたいと思う。

・茨城ではできない体験や、現地でしか感じられないことを多く経験できて、有意義な時間になった。事業所訪問や交流会でもらったアドバイスを元に、内容を深めていきたい。

・事業所訪問を行なったことで、問題解決のために何があったら良いのかが分かったが、その実現の方法は今後もっと考える必要があると感じた。まだ解決策を全く思いついていない問題もあるので、頂いた連絡先に質問したり、別の事業所を訪問したりしたい。二華高校との交流の時間をもう少し長くってほしかった。

・自分たちで決めたテーマに直接つながる答えを見つけることからずれていることに気がつきました。論文が書けるようにデータをもっと集めていきたいです。

・二華高校のように一つのテーマを持って、それぞれのチームが代々研究を引き継いで行くと、より研究を深められるのがいいと思った。だがそれと同時に、一高のように自由なテーマで探究を進められるのも、自分の興味関心を深められるためいいと思った。

・二華高の生徒さんのようにもっと自分たちのやっていることに自信をもって堂々とこれから発表できるようにしたいと思った。

FW全体を通しての満足度／4.82 (5段階評価)

8 国内フィールドワークの様子

(第1日目)

		
東日本大震災・原子力災害伝承館	被災地フィールドワーク	伝承館展示見学
		
講話の様子	ワークショップの様子	伝承館前で記念撮影

(第2日目)

		
ぼぼらす	保安サプライ	とびのこ食堂
		
仙台市役所環境局資源循環課	青空応援団	仙台市役所市民生活課

(第3日目)

		
交流会 本校代表挨拶	本校からの学校紹介	本校生のプレゼンテーション
		
本校生のプレゼンテーション	本校生のプレゼンテーション	みんなで記念撮影